

令和7年7月9日

東部農林水産振興センター農業振興部

標 題	「松江をぶどうの産地に」松江ぶどう生産組合を設立
-----	--------------------------

(ダイジェスト)

7月3日に松江管内でぶどう栽培に取り組む6経営体が「松江ぶどう生産組合」を設立しました。昨年度、生産者から島根県オリジナル品種「神紅」の栽培を希望する声上がり、それを契機に松江ぶどうの産地化や担い手育成を検討した結果、組織力を強化し、栽培技術の向上や共販体制を整え、生産振興を図ることになりました

松江管内では、主に産直出荷者による少量多品目経営の一品目としてシャインマスカットや巨峰、ピオーネ等の大粒系品種が生産されています。昨年度、松江管内で島根県オリジナル品種「神紅」の栽培を希望する声上がり、神紅導入計画の作成をきっかけとして、生産者と、市・J A・県で構成する松江市農林振興協議会が連携し産地化に向けて動き出しました。まずは担い手の確保・育成や販売戦略について協議を重ね、地域が一体となり組織的に活動していくため「松江ぶどう生産組合」（以下「生産組合」）を設立することとし、7月3日、J Aしまねくにびき地区本部中海干拓営農センターで設立総会を開催しました。

総会で組合長に選出された小室正夫氏は、「松江をぶどうの産地にし、より多くの消費者へ届けていきたい」と挨拶されました。

今年度、生産組合では、シャインマスカットの共同販売や定植講習会の開催を計画しており、3月には3名が神紅を新植する予定です。また、総会に併せ、生産者と関係機関が連携して産地化を進めていくため、ぶどうを含む松江の果樹産地構造改革計画を策定することについてJ Aから説明がありました。

総会後には、生産者3名と関係者で小室組合長のほ場を視察しました。参加者は、小室組合長からぶどうの栽培方法のポイントや担い手育成へかける思いを熱心に聞き、販売方法について意見交換を行いました。

今後、生産組合では、栽培技術の向上だけではなく販売促進活動や担い手の確保・育成の活動も行う予定です。農業振興部は、松江市農林振興協議会の一員として関係機関と連携し、地域主導による産地づくりを支援していきます。



視察の様子



設立総会記念撮影

